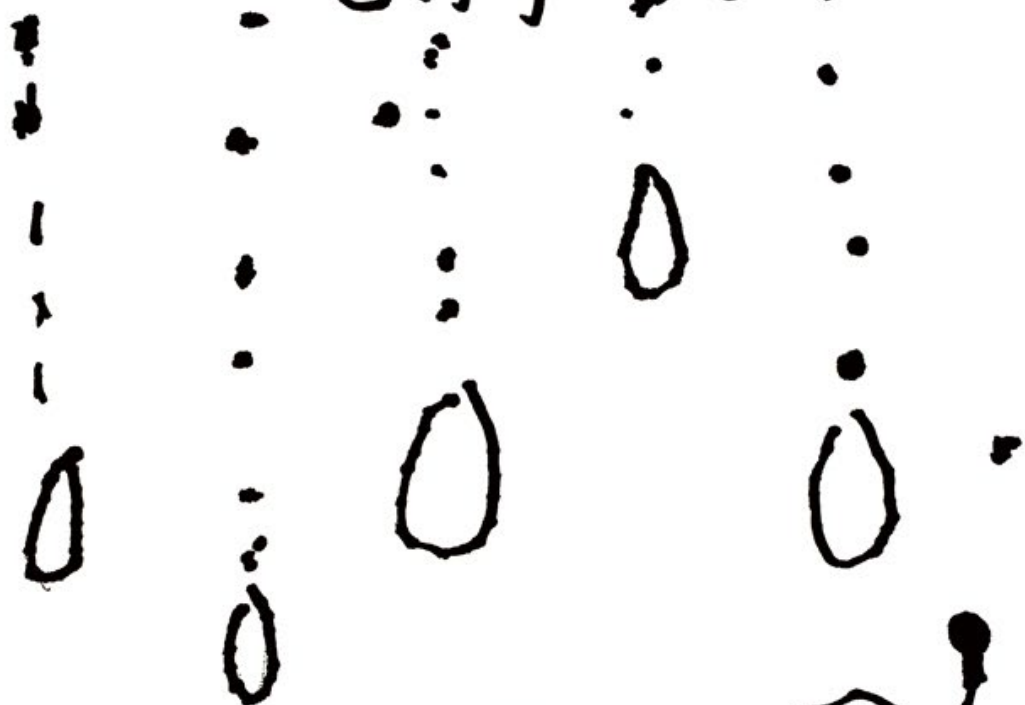


とよ・たち美肌通信

6月号 vol.131



あおは"

# June

今月号の美肌通信の表紙は。

大きくきれいな あいさいの となりに  
雨がとってモ 気持ちよさそうに  
かたつむりさんがいる 6月らしい 絵  
です！

ダンスをおどる事や、歌や絵をかく事が  
大好きな 男の子が 描いて  
くださいました。ありがとうございます。

院長はじめスタッフ一同  
じつじ感謝いたします。



地球の誕生は46億年前に遡ると言われるが、その間8回程の地球存続の危機があったと言われ、中でもうち3回は超絶体絶命の大ピンチだったらしい。その1回目は6億3000万年以上前に地球の全表面が凍りつき、全ての地表が厚さ3000mの氷で覆いつくされた。2回目は2億5000万年前。超巨大噴火が地表の多くで相次いで発生し、火山灰が太陽の光を遮断し実に96%の生命が死滅した(逆に4%の生命体は残ったことがすごい)。3回目は6550万年前。直径10km以上もある隕石が秒速20kmの猛スピードで地球に激突し、その後の飛び散った塵や海水に地球は覆いつくされ、太陽光が遮断された。丁度恐竜が死滅したのはこの頃だと言われている。以上の様な数々の地球滅亡の危機を、食虫類(現在のモグラの仲間)として生き残った哺乳類もその環境に即応し変化しなから、形態を変化し続ける中で、約400万年前に重大な変化が起った。樹上を主な生活の場としていたサルの一団が地上に降りてきたのである。理由は樹上の食料の獲得合戦に敗れたとも考えられる。



そのために地上に食料を求めざるを得なかったと考えられる。言わばその敗者こそが人類の祖先だったとも言えよう。しかし人間万事塞翁が馬といふゆえにではないにしても、食料争奪戦から離脱した逆境がサルに变革をもたらした皮肉にも人類誕生の礎を築くことになったとも解釈できる。

当時のサルの脳は約400g程で現在のチンパンジー程度であったろう。その後約300万年経過しても約500g程だと言われるが、後の100万年で1000gを超過したという。この急激な重量の土増加に関与している出来事こそが、2足歩行により両上肢が自由に使える様になった事。更には歴史の授業で習った通り、火を自由に扱える様になり食料を焼いて咀嚼する様になった事が脳の発達に拍車をかけたと言われている。そして人類の祖先は言葉を獲得していく。

人類の長い歴史も常に逆境や苦難の連続の中、それらを変革の時ととらえ、環境の変化に即して自らを変化させてきたのであろう。今、この時代もCOVID-19という人類の敵に打ち勝って変革をしていける現代人だけが生き残れるのかも知れないと、私の37兆個の全細胞にそっと語りかける今日この頃である。

院長, 拝